

3 プログラムの作り方（その1）

それぞれのプログラムは常に個別の目標（ねらい）を持っています、その目標を伝えたり、気づかせるためにプログラムを実施します。プログラム作りの一番大切なところがここにあります。伝えたり、気づかせるためにどのような体験や提案をするのかを整理して組み立てて行く作業がプログラム作りです。しかし、同じ提案や体験をしても、必ずしも同じ答えになるとは限りません。だから、正解が一つでないことを考慮したプログラム作りや多様な考えを許容出来る構成が必要です。

プログラム作成の注意点

- 1 思いこみのみでつukらない。
- 2 決めつけたり押しつけたりしない。
- 3 答えを教えるより相手の意見や考えを引き出す。
- 4 考えたり、気づかせるようにつukる。

プログラムに必要なもの

- 1 伝えたい明確な目標（ねらい）
- 2 原因や問題に気づかせるヒントや事例
- 3 自分で考えるための問題提起
- 4 環境の問題解決のための行動に結びつくヒント

プログラムを体験する



問題の存在に気づく



原因を学ぶ・調べる



行動する・環境を守る

環境学習のプログラムは、参加者に環境保全への具体的な行動を起こさせることが最終的な目的です。 そのために、感動や驚嘆する要素をどこかに入れるとより効果的です。

プログラムの開始時から生まれた小さな波が、最後には大きなうねりとなって人の心を揺り動かすことになるようなプログラムが最もすばらしいプログラムなのです。